

高体連札幌支部

後期陸上部 好成績残す



▲質問に答える斉藤百禾さん

本大会には4年生から6年生までの18名が競技に参加し、男女のマイルリレー、個人種目で6年北村篤哉さんが400m入賞、奥田橙さんが800m入賞、中村誠さんが砲丸投入賞、5年の安田乃々さんが1500mと3000m決勝に進出、4年の大久保碧さんが砲丸投げ上位入選し、全道大会出場を決めた。今回の結果について、後期陸上部部長である6年北村篤哉さん、斉藤百禾さんに

インタビューを行った。Q1 今回の高体連の結果をどう受け止めていますか？

北村 昨年度よりも全道大会に参加できる人数が増えたことは喜ばしい事だと思います。反面、上位入賞ができなかった面では力不足を感じる結果でした。斉藤 個人種目で良い結果を残すことができた人が多かったです。しかし、全道進出したマイルリレーは男子総合9位、女子総合10位と入賞には惜しくも届

かなかったことは悔しかったです。Q2 普段の練習で大切にしていることはなんですか？

北村 開成は、他の学校の部活に比べて週の練習が少なく「限られた環境」の中でいかに効率よく質の高い練習が出来るか、与えられた環境の中、自分たちがコントロールできる範囲での最大限を出せるよう、環境を言い訳にせずに日々頑張っています。斉藤 コミュニケーションを大切にしています。私たちがリレーの時に速くなれる秘訣は、普段からコミュニケーションを沢山とって互いをよく知っていることです。Q3 開成陸上部としての強みは何ですか？

北村 部員数が少ない分、Q4 10期陸上部としての強みは何ですか？

北村 強豪校に勝つためにはまだまだ力不足なので、もっとパワーアップして全道大会に挑みたいです。奥田 全道では6年間の集大成として、悔いを残さないように走り抜きます。中村 昨年来の怪我を悪化させないように気を付け、今できる最大限を出きる気持ちで挑みました。全国大会に出場できるよう、精一杯頑張ります。

支部大会入賞者の一言コメント

男子400mで6年の北村篤哉さん、男子800mで6年の奥田橙さん、男子砲丸投げで6年の中村誠さんが見事に入賞した。それぞれのコメントは以下の通りである。北村 強豪校に勝つためにはまだまだ力不足なので、もっとパワーアップして全道大会に

次なる舞台は全道大会

5月19日から22日までの4日間、厚別公園競技場にて第78回札幌支部高等学校陸上競技選手権大会が行われた。計13名が6月に帯広で行われる第79回北海道高等学校陸上競技選手権大会に出場することが決定した。



▲質問に答える北村篤哉さん

かなかったことは悔しかったです。Q2 普段の練習で大切にしていることはなんですか？

北村 開成は、他の学校の部活に比べて週の練習が少なく「限られた環境」の中でいかに効率よく質の高い練習が出来るか、与えられた環境の中、自分たちがコントロールできる範囲での最大限を出せるよう、環境を言い訳にせずに日々頑張っています。斉藤 コミュニケーションを大切にしています。私たちがリレーの時に速くなれる秘訣は、普段からコミュニケーションを沢山とって互いをよく知っていることです。Q3 開成陸上部としての強みは何ですか？

北村 強豪校に勝つためにはまだまだ力不足なので、もっとパワーアップして全道大会に挑みたいです。奥田 全道では6年間の集大成として、悔いを残さないように走り抜きます。中村 昨年来の怪我を悪化させないように気を付け、今できる最大限を出きる気持ちで挑みました。全国大会に出場できるよう、精一杯頑張ります。

支部大会入賞者の一言コメント

男子400mで6年の北村篤哉さん、男子800mで6年の奥田橙さん、男子砲丸投げで6年の中村誠さんが見事に入賞した。それぞれのコメントは以下の通りである。北村 強豪校に勝つためにはまだまだ力不足なので、もっとパワーアップして全道大会に

ゲリライベント、開催

生徒会主導、開成史上初の試み

12月26日、コスモタイム中に「ゲリライベント」が開催された。このイベントは第11期生徒会が考案、主催するものであり、校内初の試みとなった。ゲリライベントの開催を公約に掲げ、実現をした現生徒会長・瀬田松厚志さんにインタビューを行った。

実際に開催されたゲリライベントは、瀬田松会長が公約に掲げたとおりに「全校参加型で異学年交流があるイベント」の様相を呈していた。実施されたゲ

リライベントは、校舎中にちりばめられた異変を探し、生徒自身が回答するという内容になっており、今までの開成生活にはない新鮮さや刺激が見られた。



▲異変を探す生徒達

実際にイベントが行われていたコスモタイムでは、異変を探して校舎を探索する生徒達の姿が見られた。このようなイベントを計画した理由として瀬田松会長は「自分自身の開成生活を振り返っても、行事やイベント以外の思い出が少なく、日常生活に刺激が足りていなかったということがあり、少しでも日常を変え、刺激をもたらしてくれるイベントが欲しかったんです」と述べた。

そのようなイベントの一方で、6年生が自学自習に励んでいるラウンジは、静かな様子を見せていた。これについては「今までの恩返しの意味合いも込めて、6年生が学校にいるうちにイベントを開催したいという思いがありました。しかし、6年生は大学受験を控えた大事な時期なので、6年生のラウンジには



▲熱中する生徒達

予め異変が無いと告知することで、イベントに参加する6年生も参加しない6年生も尊重できていたと考えています」と配慮を示した。イベント終了後には、生徒間でも感想の交流が行なわれている様子が見られ、非常に活気づいていた。今回のイベントの総括として瀬田松会長は

「生徒が参加しやすいコスモタイムに開催することができて良かったです。全学年が参加できる時間だったので、異学年交流を深める良い機会となっていました。反省点として、絶

盛り上がる全校生徒

「生徒が参加しやすいコスモタイムに開催することができて良かったです。全学年が参加できる時間だったので、異学年交流を深める良い機会となっていました。反省点として、絶

(菅原)

5月1日に、多目的ホールにて放課後ユニットの集集力による大型ライブ「フリッピー」が行われた。今回のように多目的ホールで開かれる大規模なライブは昨年度の開催以来2度目であり、会場には100人以上の観客が訪れた。

今回開催された「フリッピー」では、前座としてトークとコンサートも披露されたが、フリッピー芸をメインにしてライブが展開された。

今回のライブでのフリッピー芸は、フリッピーを模したスクリーンにイラストや写真を表示する仕組みであった。フリッピー芸を披露したのは4

人て、芸の終了後に観客が最も面白かった芸に投票し、一位を決めるという前回には無かった新たなイベントも行った。

「フリップ1」は、
13期生のトマシーンが凱
さんがフリップを用い
た芸をメインにライブ

▼ 芸を披露するユニットメンバー――

今回のライブで、トップバッターとしてスタンドアップコメディーを披露した、11期生の藤原花和さん。

▼
ライブで話す藤原さん

スタンダードアップコメディーとは、アメリカカニイギリスを拠点として行われている、マイナー本でステージに立つて話を進める話芸である。自分の意見や世界観で起こっている問題、時には社会への風刺を軸として話すことが多いため、話者のユーモアだけでなく知識が強く求められる。

藤原さんは、幼少期から漫才を見て育ち、

開成での国際交流を経
てスタンドアップコメ
ディーへの興味を持つ
たという。

今年1月にはアメリ
カへ行き、本場の観客
に向けて英語でトーク
を披露した。藤原さん
は、「観客ありでの初
舞台がアメリカであつ
たため、とても緊張し
た」と当時の心境を語
る。5月には、その活
躍が目にとまり、北海
道新聞の道内で輝く人

を紹介するコーナー「ひと」に掲載された。

人前で話す経験を積むにつれ、校内の授業や課題でプレゼンをする際の緊張も小さくなったと話す藤原さん。スタンドアップコメディの魅力について聞くと、「自分の言いたいことを言えるから、いやなことがあっても後々笑いに変えられるぞ」と笑みを溢した。

（竹内）

をしないと発案し、開
催に至ったという。

トマシーンさんは、1年生の時から国語ラウンジで定期的に漫才を行っていた。フリップ芸は、学校から支給される端末のgoogleスライド機能を用いて、簡単に作成できたため、その用意のしやすさがフリップ芸を始める動機になったという。ま

た、お笑いが好きな同級生の仲間にも恵まれ、以降も社会ラウンジやカフェラウンジで小規模なネタの披露を続けていた。同年春に笑集力が発足し、同級生と加入。約1年後に本ライブの開催に至った。

今回のライブに対してトマシオンさんは、「先輩の力を借りて、前回のライブよりも多

くのジャンルを交えたライブを開催できた。自分たちで照明などの演出にこだわって準備しただけでなく、投票を通じた観客との交流もあり、様々な面で前回よりも進化したライブになった」と充実感を口にした。

6月19日には、持ちネタを観客に披露し改善することを目的とし

た「ネタ見せ」という小規模のライブが国語ゾーンの展開教室で行われた。30分ほどの短い時間であったが、こちらも学年を問わず60人以上の観客が訪れ、大盛況で幕を閉じた。ネタ見せは、大規模なライブとは異なり、高い頻度で定期的に行われるという。

〔竹内〕

竹内

(竹内)

発行
開成中等新聞局
顧問 三上
編集長 村重
制作者
村重 佐野 菅原
沼津 松原 竹内

紙面紹介

1面 開成祭スローガン
2面 ゲリライベント
3面 陸上部
4面 笑集力ライブ

マジ開成祭、好きすぎて滅！

5月14日、今年度の開成祭スローガンが、全校生徒による投票を経て決定した。発案者は5年4組佐藤瞭真さんで、一昨年に続き二度目の選出となった。スローガンの発案から選出に至るまでの過程に迫る。

開催に熱意を見せた。発案者の佐藤さんは、これ以外に二年前にも「We Real 開成祭」というスローガンで応募し、見事選出されていた。ざゆん」の語感がちょうど6文字だということに気づき、これと開成祭を組み合わせようと思い至りました」と語り、このひらめきが

5年 佐藤瞭真さん

スローガンに込めた
思いとして、開成生全
員が開成祭を楽しめる
ようにと、このスロー
ガンを考えたと言った。

「やはりみんなが『好
きすぎて滅！』になる
ように、開成祭を作っ
ていきたいと思いまし
た」と、今年の開成祭

スローガン発案の経緯を語る佐藤さん



なスローガンが開成生みんなに響くか考えたという。佐藤さんは「これが功を奏し、今回の選出につながったのではないかと思っています」と振り返った。

スローガンを思いつくまでの経緯として、最新の流行を取り入れ

すよね。好きすぎて滅！
は、サビのフレーズだ
けは知っています」と
語り、熱烈なMーick
ファンおよびBe Real
ヘビィユーザーの開成
生に謝罪の意を示した。

最後に佐藤さんは、
スローガンに込めた思
いの通り、誰もが楽し

は、段階的な審議が存在する。まず、全校から寄せられた案を生徒会広報装飾課で確認し、公序良俗に反するものを除外した上で、最終候補を3案に絞り込む。その後、全校アンケートによる決選投票を行い、正式に決定される。

示唆した。現在は応募の段階から3枠に絞る形式を取っているが、今後はこの制限を撤廃することも検討中であるという。

同課が求めるスローガン像として、公序良俗に反しないことは大前提とし、パンフレッ

来年度の応募については「学校祭の目標そのものを体現し、生徒全員がその目標を達成できるような願いが込められたスローガンを期待する」と話し、開成生の創造的なアイデアに期待を寄せた。

(佐野)

スローガン選考の舞台裏

堀遊さん

今年の応募は57件に上り、昨年の31件から大幅に増加した。「今年にはClassroomを用いたた督促の実施や、先生方による積極的な告知が功を奏した」と語る。

フリーズや、その年の流行を反映した案が選ばれやすい傾向にあるという。実際、今年の「マジ開成祭、好きすぎて滅!」でも、同様のスローガン案が3件

最終候補が3枠のみである理由について、堀さんは「これまでの慣習によるもの」としつつも、今後の改正を

ほど寄せられたと言
うが、最終的な採用の決
め手となったのは、先
述のリズム感の良さで
あった。

▲新聞局から▲ユニット活動大盛り上がり！！